

# YMCA NEWS

## 神戸青年 No.597



2009.9・10 Sep・Oct

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7  
 THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/坂本 庸秀  
 神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15  
 TEL.078-241-7201 FAX.078-241-7479  
 URL http://www.kobeymca.or.jp 印刷/わかばやし印刷

神戸YMCA 年間聖句 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。(ヨハネによる福音書 13:34)

心身に障がいのある人たちのために  
 あなたの参加費が支援金となります



### 第12回神戸YMCAチャリティーラン

今年で12回目となる「神戸YMCAチャリティーラン」が11月3日  
 しあわせの村(神戸市北区)で開催されます。参加者、ボランティア合わせて  
 1000人を超す笑顔が溢れる注目のイベントにぜひご参加ください。

YMCAチャリティーランは1983年、チャック・ウィルソン氏(現大会委員長)の提唱により「日本中の障がいのある子どもたちがYMCAのキャンプに参加できるように」支援する目的で始められ、現在では全国16のYMCAで開催されています。

神戸大会は1988年に第1回が開催され、今ではランナーと奉仕ボランティアが全国で最も多い大会になっています。神戸大会独自の「小学生駅伝」など、大会創設の趣旨を踏まえな



がら、共に走る楽しさ、誰かのために走る素晴らしさを味わうことができる大会にしようと、実行委員会を

中心に評価と工夫を重ねてきた結果といえます。

今年も大野勉実行委員長(神戸YMCA国際活動委員、神戸ポートワイズメンズクラブメンバー)を中心に、多くのボランティアの力を合わせて準備を進めています。駅伝、グループプランはもちろん、ゲームや模擬店や抽選会もあります。ランナーもボランティアもそしてギャラリーも一緒に「笑顔溢れるチャリティーラン」をつくりあげたいと願っています。

と き：2009年11月3日(火・祝)  
 と ころ：しあわせの村ジョギングコース  
 受 付：午前9時より



【プログラム】

- A 小学生駅伝 4年・5年・6年生  
 男子4名もしくは女子4名で1チームのタイムレース
- B グループラン 原則5名以内のグループまたは家族で1チーム  
 2.0km 宣言タイムレース
- C 駅伝(一般) 4名1組 1名3.2km タイムレース
- D 駅伝(女子) 4名1組 1名3.2km タイムレース

【スタート】

- A 6年生=10:00 5年生=10:30 4年生=11:00
- B 11:40
- C・D 12:25

【参加費】

- A 1チーム 2,000円 B 1チーム 5,000円
- C・D 1チーム 10,000円

【協賛金】(任意)

- 企業・団体 1口 20,000円 個人 3,000円

【お問い合わせ・お申し込み】

神戸YMCAチャリティーラン事務局  
 078-241-7201 または各YMCAまで

#### 三田トピックス 「市長と本音でトーク」に参加して

6月29日、三田市長をはじめ、企画財政課、福祉推進課、こども課、生涯学習課、学校教育課、広報課の方々やYMCAスタッフ・ボランティアリーダー・リーダーOBとのディスカッションの機会をいただきました。まずYMCAが何をしている団体なのかを知りたいという声が多く、これまで三田市の中でYMCAが何を大切にしているのよう活動してきたかを話しました。改めて、近いようで遠い行政との距離を感じましたが、「ここ数年、三田YMCAが取り組んで



三田市役所に  
 ほどよい緊張感の中で、熱い  
 トークが繰り広げられました。

きたプログラムが、必ずしも積極的に開かれたプログラムではなかったという事実を受け止め、これから地域に求められる本場に必要なたくまなプログラムを見出すよい機会になったと思います。

本音でトークでは「今後の青少年活動の展望について」「子育て事業について」をテーマに、ボランティアをどう巻き込んでいくか、学校との連携をいかに強めていくか、また市民の心と身体との成長を支援していくための具体策などを話しました。市民にとっての行政でありたいという市の願いや、その中でYMCAが持つノウハウがどのように発揮できるかを語り合う中で、今後、可能になる協働事業についての具体案も出てきました。「子どもと若者のいのちが光り輝くように」を合言葉に、市や行政と若者をつなぐコーディネーターの役割をYMCAが全面的に担っていきけるよう、これからも行政との活発な情報交換をしていきたいと思



宇宙の大スペクタクル「皆既日食」のダイヤモンドリングに日本中がくぎづけになっていた時、またまた大災害が山口県の特養老人ホームを飲み込んで、多くの死者行方不明者を出してしまいました。神様から与えられた環境を、人の力で変えた事から起こる人災の現場と、それを取り囲む大自然の美しい映像は余りにも対照的でした。8月6日広島平和記念式典での子ども代表による「平和への誓い」は、見事でした。「世界が平和になるために、私たちが出来ることはなんでしょう」と問いかけて、「けんかやいじめを見越さないうこと」という身近な事から始めて、「話し合いで争いを解決する」、「核兵器を放棄する」、「原発や戦争という「闇」から目をそむけることなく、しっかりと事実を見つめます。」と、現実をふまえながら、見事に方向を定めているのです。こんな素晴らしい世界の子どもたちが「国連子ども平和会議」を行えば、すぐにも平和が訪れるのではないのでしょうか。「隣人から自分たちを守る」ことだけを考えるのは、戦争へと向かう武器のいる道です。「自分たちの方から隣人を守ってあげよう」と考えるのは、平和へと向かう武器のいな

は、平和な道なです。「生まれてきてよかつたな」と、思える社会を次の世代を担うユースの皆さんに残していきたいものです。今も世界の多くの子どもたちが、今日生きることが一杯の生活を余儀なくされています。しっかりと現実を見ながら、神様から与えられたいのちを大切に生き方を学びたいと思

(鈴木 誠也)

# 富士登山キャンプ報告

報告者(引率・坂本 孝司)



富士山は、強く、美しく、とても大きな山ですが、とても厳しく、そして優しい山でした。

登山前のガイダンスでは、  
1. 自分のことは自分です。  
2. ネガティブワードは言わない。  
3. 一歩一歩ゆっくり大切に、しっかり呼吸をしながら歩く。という3つのことが強調されました。

標高1970mの須走五合目をスタートし、最初の目標は本7合目(標高3140m)の山小屋「見晴館」。長く歩き続けるためには「疲れの前に休む」「お腹がすく前に食べる」「のどが渇く前に飲む」「汗をかく前に脱ぐ」。寒くなる前に着る」ということが重要で、休憩時間も子どもたちのチャレンジが続きました。朝から歩き続け、見晴館にたどり着いたのは午後4時半すぎ。8時間弱歩き続けたことになりました。高度は既になつたり、吐き気をもよおす子もいました。



少しの仮眠のあと、悪天候の為に出発を1時間半遅らせて再スタート。午前4時44分、真っ赤なマグマのような太陽が少しずつ顔を見せると、子どもたちから歓声があがりました。「太陽ってすごいな」、リーダー。「午前7時50分、全員無事に富士山登頂に成功しました。」

子どもたちには、日本一の山の頂上に登りついたことに自信を持って欲しい。そして自分たちを支えてくれた人への感謝を忘れないで欲しい。登山の最初から最後まで随行してくれた東山荘の白鳥リーダーと阪田リーダー、一緒に登った仲間、山小屋で待っていてくれたおじさんとおばさん、あらゆるところで声をかけてくれた登山客の方々など、たくさんの方の支えがあつて登り切ることができたことを忘れないでいて欲しい。

富士山は、私たちに自身自身に対する自信と周りの人への感謝の心を教えてくれました。

# 水上安全プログラム報告

報告者:坂本 孝司



この夏も神戸YMCAは、子どもたちの大切な命を守るため、水上安全のさまざまな活動を行いました。

主な内容は、小学校教職員およびPTA対象の心肺蘇生法・AED使用方法講習会(湊川多聞小、なぎさ小、筑紫が丘小、山の手小、120名)

名)、小学校での着衣泳指導(山の手小、湊川多聞小、なぎさ小、ゆりのき小、長尾小、900名)、YMCAプールでの着衣泳指導(地域オーブンプログラム。東町小学校、太山寺小学校、小寺小学校、180名)、YMCA作製ウォーターセーフティハンドブックの配布(神戸市西区、須磨区、垂水区、中央区、灘区、東灘区、三田市、西宮市の5年生全員、神戸YMCA日常クラス、地区体育館など、27000部)でした。

着衣泳指導では「自分の命は自分で守る」ことを前提に、水に落ちたらどうするか?を、実際に体験してもらい、1.泳がない。呼吸を確保して、助けを呼ぶ、2.友達に落ちてても、自分の手

を出して助けない。3.子どもたちだけで川や海へ行かない、ということ伝えていきます。



# 100年前のクリスマス

賀川豊彦献身100年記念コラム



賀川は、生活に困っている人々の救済活動をしていた命の恩人「長尾牧師」の存在を常に心に留めていました。そして、1909年12月24日、神戸の貧しい人々が多く暮らす新川に移り住み、自ら救済活動を始めたのです。賀川が21歳の時でした。ここでは、人々にキリスト教を説きながら、「善飯屋」「天国屋」を開店するなどの活動を展開。その一方で、「もらい子殺し」という慣習に心を痛めた賀川は、子どもの権利を



主張し、保育事業などを展開していきます。これらのことは、1999年12月に、ユニセフ国連児童基金の世界児童白書にて、賀川豊彦が「子どもの最善の利益を守るリーダー」として、世界の52人の一人に選ばれていることにつながっていったのです。



# 感謝

【日本宝くじ協会より】

テントの「奇贈」

日本宝くじ協会様より、日本YMCA同盟を通じて、YMCA保育園ならびに神戸YMCAちとせ幼稚園、三田YMCAに集会用テントが奇贈されました。長年にわたり、子どもや若者の活動をお支えいただいていることに、心より感謝いたします。ヘルシーキッズデイや夏の園庭遊び、地域住民への園庭開放など、様々な機会を活用させていただきます。



# 【寄付金】

陳澤様

# 本のご紹介



『168の十字架 そのシンボルと黙想』  
 (宋炳九〔ソンビョング〕著・中道基夫監修、キリスト新聞社)

この本の日本語訳の誕生のきっかけは、神戸YMCAにあることをご存じでしょうか。後書きにも書きましたが、水野総主事がパートナーYMCAの韓国・大田(テジョン)YMCAから贈呈された韓国語の原著を、韓国語のできる神学生にあげてくださいと戴いたのがこの本との出会いでした。わたしはハングルを理解しませんが、1頁ごとに紹介されている十字架の多様なデザインに魅了され、その一つ一つの十字架について書かれてあることが知りたく

て、関西学院大学神学部で学ぶ韓国人学生と共に翻訳出版いたしました。  
 十字架のデザインは、縦棒と横棒の組み合わせの単純なものです。しかし韓国メソジスト教会の宋牧師が、この本で紹介されている十字架の一つ一つが十字架についての新しく、また多様な理解を与えてくれます。1頁1頁、新しい十字架に出会う楽しみがあり、それについて瞑想することもできます。思わずほほえみが出る十字架もあれば、じっくりと考えさせられるものもあります。  
 イエスは「自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」(マタイ16:24)とされました。その「自分の十字架」というのはどういう形をし、どういう意味を持っているのでしょうか。それは決して重く、苦しく、痛みを伴うものだけではなく、むしろその十字架によって楽しくなり、解放され、生きる力が与えられるものもあります。この本の中にそんな「自分の十字架」を見つけることができるかもしれません。神戸YMCA125周年のロゴマーク(1面参照)も、わたしにはゴルゴダの丘の3本の十字架、神・イエス・聖霊の三位一体を象徴する十字架、「平和・愛・いのち」を象徴する3つの十字架となって神戸でその輝きを放っているように見えます。これが神戸YMCAが担うべき「自分の十字架」なのではないでしょうか。著者の宋牧師にぜひ紹介したい十字架です。(中道基夫：神戸YMCA副理事長、関西学院大学准教授)

## 海外からキャンプ研修に

毎年余島には海外からキャンプ研修に来られますが、今年は写真左のSarah AtchisonさんがシアトルYMCAから、中央の余碧純(Yu Pi-Chun)さんと右の陳禹涵(Chen Yu-Han)さんが台湾YMCAから来られました。掃除中にちょっとポーズしてもらいましたが、もちろんお掃除だけでなく、少年キャンプのメンバーたちとプログラムをしたり、センターのゲストのお世話をしたりと、色々な場面で活躍してくれました。



2009年7月京都にて

す。加するを願って、  
 続き、たくさんが参  
 シンジプログラムが  
 このユースエクス  
 くれたらと願います。  
 深く知り、好きにな  
 ラムで日本のことを  
 私は、彼らがこのプ  
 れたと思います。何  
 し、ステイを楽しん  
 したと思えます。何  
 を両親に頼みました。  
 出来ればと思いい、  
 た。プログラムの中  
 が日本語を覚えて使  
 ではあまりない電車  
 など、日本の習慣を  
 した、ステイを楽し  
 したと思えます。何  
 を両親に頼みました。  
 出来ればと思いい、  
 た。プログラムの中  
 が日本語を覚えて使  
 ではあまりない電車  
 など、日本の習慣を

と努力して、日本に  
 えようとする気持ち  
 生活の中で様々な違  
 の多さ、スーパーのレ  
 日本とは違ったもの  
 が、それに馴染んで  
 分自身の考え方の幅  
 理解、コミュニケーション  
 と、そしてたくさん  
 今年、日本に来るシ  
 したいと考え、ティ  
 を両親に頼みました。  
 出来ればと思いい、  
 た。プログラムの中  
 が日本語を覚えて使  
 ではあまりない電車  
 など、日本の習慣を

### ソナタ 奏鳴曲 No.39



バクの飼主めざして 総主事 水野雄二

40年ほど前に「庄司 薫」という作家がいました。(正確に言うと今もいます。)1969年、「赤頭巾ちゃん気をつけて」という小説が芥川賞を受賞し、その前後の数点の作品は当時の若者から熱烈な支持を受け、私も愛読した一人です。1960年代、高度経済成長に沸いた日本。その中で何に向かってか、ひた走りに走る若者の危うさを描いた小説にシンパシーを感じたものでした。  
 彼の「バクの飼主めざして」という本があって、その中でも洪水のように流れていく高度成長の大河に、「夢」というより「欲望」のままに突き進んでいくような若者への危惧を表しています。「この情報洪水の現代は、それ自体が巨大な胃袋を持つ大怪物のように、夢も悪夢もあらばこそ、いや、夢が夢に、悪夢が悪夢に育つのを待つひまもなく、すべてを根こそぎに呑み込んでたちまち排せつしてしまうという驚くべき特技を持っている。このような現代のまっただ中で、バクよろしく、ゆっくりと夢を食べ夢を育て続けていくには、一体どうしたらいいのだろうか。」と庄司 薫は書いています。  
 バクとは中国の想像上の生き物で人の悪夢を食べる動物ですが、時代の加速度的な変化から一步下がって、ゆっくりと夢を食い、夢におぼれないう若い日を生き抜くにはどうするかが作家、庄司 薫のテーマであったと思われます。  
 あれから40年経って、あの時の若者は中年後期から老年にさしかかり、夢はとくにバクに食われてしまったようですが、現代の若者を見ても昔と変わらず、いやそれ以上にゆっくり夢を育てることは叶わない時代ようです。  
 神戸YMCAの専門学校でも夢を育てる場として若者が集っていますが、世界的な不況による就職難の時代にあって夢の実現への悪戦苦闘が続いていますし、高等学院では課題を持つ学生たちが自らの将来を切り拓くために日々取り組んでいます。一人ひとりの学生の心の中にバクがいて、ゆっくりゆっくり夢を育ててくれることを祈ります。誰にもきっとバクはいる・・・。

### シリーズ「くささいのまど」

昨年、シアトル・グローバル・スタディツアーでシアトルYMCAを訪問、今夏、神戸YMCAボランティアとしてシアトル・ティーン・リーダーシップ・プログラムをサポートした谷本奈菜子さんからのメッセージをお届けします。  
 昨年のツアーは私にコミュニケーションと異文化理解について考えさせてくれるきっかけとなりました。  
 現地のユースやホストファミリーと長時間過ごすこと、自然に現地語で会話することになります。慣れない英語での会話は時に難しく、自分の伝えたいことが伝わらないこともありましたが、最初は「英語できちんと伝えなければ」と思っていました。最初は「英語できちんと伝えなければ」と思っていました。最初は「英語できちんと伝えなければ」と思っていました。  
 生活の中で様々な違いにも出くわしました。食事の量の多さ、スーパーのレジ、お風呂の入り方一つにしても日本とは違ったものでした。戸惑うこともありましたが、それに馴染んでいくことで文化の違いを理解し、自分自身の考え方の幅が広がりました。異文化への理解、コミュニケーションで何が大切なのかということ、そしてたくさんの方々と交流することができました。  
 今年、日本に来るシアトル・ティーンのお手伝いをしたいと考え、ティーンのお手伝いになることを両親に頼みました。また少しでもお役に立つことが出来ればと思いい、プログラムにも参加させて頂きました。プログラムの中で最も嬉しかったことは、ティーンが日本語を覚えて使ってくれたことです。お互いの距離が近づいた気がしました。お箸を使った食事、アメリカ力ではあまりない電車に乗ることなど、日本の習慣を体験し、ステイを楽しんでくれたと思えます。何より私は、彼らがこのプログラムで日本のことをより深く知り、好きになってくれたらと願っています。  
 このユースエクスチェンジプログラムがずっと続き、たくさんが参加することを願っています。



2008年7月シアトルにて

|                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| ウエルネスセンター三宮     | ☎078 (241) 7202 |
| YMCAホームヘルパーの事務所 | ☎078 (241) 7237 |
| ランゲージセンター       | ☎078 (241) 7204 |
| 専門学校            | ☎078 (241) 7203 |
| 西宮YMCA          | ☎0798 (35) 5987 |
| 三田センター          | ☎079 (559) 0075 |
| 余島野外活動センター      | ☎0879 (62) 2241 |
| ウエルネスセンター学園都市   | ☎078 (793) 7401 |

**KOBE**  
**YMCA**  
**GOAL 2011**

# Information

|            |                 |
|------------|-----------------|
| 西神戸YMCA    | ☎078 (793) 7402 |
| 西神南センター    | ☎078 (993) 1560 |
| 須磨YMCA     | ☎078 (734) 0183 |
| YMCA保育園    | ☎078 (794) 3901 |
| 西神戸YMCA保育園 | ☎078 (792) 1011 |
| 西宮YMCA保育園  | ☎0798 (35) 5992 |
| YMCAちとせ幼稚園 | ☎078 (732) 3542 |
| 西神戸YMCA幼稚園 | ☎078 (997) 7705 |

# Sports Club Information

## ★神戸YMCAバレーボールクラブ★

6/14(日)、「新日本スポーツ連盟兵庫」主催の男女混合バレーに参加し、優勝しました。

通常は、男子9人制、女子6人制で活動している社会人クラブとして対外試合に出場しています。今回は、レクリエーション目的で男女混合バレーに出場し優勝しました。次は、11月に埼玉で行われる全国大会に参加します。兵庫県代表として全国制覇を目指し、KOB E YMCAをアピールしたいと思います。そのためにも、遠征費用のご支援をいただきたいと思ひます。ご賛同いただける方はウエルネス三宮受付へ募金をお願いいたします。



## ★神戸YMCAヨットクラブ★

7/18(土)・19(日)、西宮沖で行われた「関西実業団ヨット選手権」に出場し、第2位入賞しました。この2日間で7レース行われ、3回は1位でゴールしたものの、1回のリコールがあり、わずかに1点差でスナイプ級個人2位となりました。



# Photo Topics in Summer

余島家族キャンプ① 7/18～20



乗馬やカヌーなどの体験などを通し、ひとりひとりが時間や周りのことを考えながらも、親睦を深められた楽しい修学旅行になりました。

子どもたちは余島中を駆け回り、親御さんたちもカヌーに挑戦したり、グラウンドでボールを追いかけたりされていました。また、参加者全員で砂浜に大きなお城を作るなど、夏休みの始まりを楽しみました。

第22回 午餐会 7/4



約40名の方が参加。関西学院初等部の部長(校長)である磯貝曉成氏をお招きし、「日本の中等教育に欠落していたもの」というテーマでお話をいただきました。

沖縄スノーケリングツアー 7/17～20



沖縄県座間味島へ行きました。昼はマリンスポーツの海でスノーケリング、夜はサンセットクルーズ、食事は沖縄料理に舌鼓をうち、沖縄大満喫の4日間でした。

アクアティックキャンプ 8/9～12



疲れるのも忘れてイルカと泳ぎ、みんなの笑顔が弾けました。

English World 7/28～29



外国人の先生とリーダーと英語を使って2日間楽しく過ごしました!クラフトでは夏らしくサングラスを作ったよ!

## \*\*\* Charity Events \*\*\*

### ●第21回チャリティゴルフ

日時：10月14日(水)  
場所：ジャパンメモリアルゴルフクラブ  
(三木市吉川町)  
参加費：20,000円

21回目のチャリティゴルフが会員活動委員会の実行委員会と準備されています。すばらしい秋の一日をゴルフで楽しみませんか?

### ●第20回チャリティワイン

日時：11月13日(金)  
場所：神戸ポートピアホテル  
※参加費他詳細は現在調整中です。  
今回は、サイコー亭からポートピアホテルに場所を移し、第20回の記念の会を予定しています。ポートピアホテルチーフソムリエ岡本博文氏が選ぶワインを飲みながら、楽しいひと時を過ごします。収益金は全額「子ども奨学金」に捧げられます。

### ★★ 個人消息 ★★

■ご逝去■ 謹んでお悔やみ申し上げます

阿野麻里子さん(ウエルネスセンター学園都市)のお祖母様

5/13

末岡成夫様(中央地域委員)並びに末岡祥弘様(大阪YMCA総主事)のご尊父様

6/16

遠藤浩さん(維持会員、元神戸YMCA職員)のご尊父

7/11